

## スポーツ少年団の現状と課題

スポーツ少年団は、スポーツの歓びを一人でも多くの子どもたちに伝えたいと、約半世紀の間、地域の中で活動を続けてきました。その結果、スポーツ少年団は、多くの方々に支えられ、大きく発展することができました。

一方、スポーツ少年団におけるスポーツ指導は、競技化が進み種目が単一化され、そして勝つことだけを求める指導によって、不適切な指導が行われているとの報告もあります。この先に見えてくるのは、燃え尽き症候群や運動嫌いの子どもの姿です。スポーツ少年団の原点でもあるスポーツの楽しさやおもしろさを伝えることよりも、勝つことを優先するあまり、スポーツの厳しさや苦しさが際立った指導になっている可能性があります。

下記の調査結果表にはありませんが、野球の年間試合数を尋ねたところ、100 試合以上行っているチームが全国スポーツ少年団競技種別交流大会に出場した 16 チームのうち 7 チームもあったのです。

日本スポーツ少年団では、単位スポーツ少年団活動の目安として、1 日あたり 2～3 時間程度、1 週間に 2～3 日が、無理のない活動としています。この目安は、スポーツ少年団で活動する子どもにとって、身体的、精神的に過度な負担がなく、意欲をもって参加できる活動量として推奨しています。

子供たちがスポーツに出会う時期には、ルールにこだわり過ぎず、子供たちの自発的な運動を育むような環境づくりや仕掛けが必要です。とかく私たちは教え過ぎるのではないのでしょうか。子どもたちにとって楽しく興味をもてる活動プログラムを提供できれば、団員の減少にも歯止めがかかるのではないかと考えます。

表 全国スポーツ少年団競技別交流大会参加者に対する調査結果

(スポーツ少年団、2007)

種目	活動日数 (日/週)	やめようと思ったことがある (%)	やめたいと思った理由 (上位 3 項目)
野球	4.8	31.2	①練習が厳しい (38%) ②良いプレイができない (14%) ③うまくならない (14%)
バレーボール	4.7	61.8	①練習が厳しい (36%) ②良いプレイができない (22%) ③友人関係 (9%)
剣道	3.6	51.9	①練習が厳しい (49%) ②良い試合ができない (23%) ③うまくならない (8%)

「幼児期からのアクティブ・チャイルド・プログラム」より

(公益財団法人日本スポーツ協会日本スポーツ少年団)